令和 5 年度　東京都内湾水生生物調査 2 月成魚調査速報

●実施状況

令和 6 年 2 月 14 日に成魚調査を実施した。調査当日は中潮で、満潮が 7 時 44 分、干潮が 14 時 02 分であった（気象庁のデータ）。調査当日の透明度は 2.4～4.2m であった。また、いずれの地点において赤潮は発生していなかった。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:50-11:10		11:12-12:30		12:36-13:30		13:35-15:00	
水深（m）	25.8		13.4		13.4		8.4	
天候	快晴		快晴		快晴		晴	
気温（℃）	13.2		13.7		14.3		15.6	
風向/風速(m/sec)	N/1.1		NNW/0.9		NNW/1.2		-/0.0	
波浪(m)	0.2		0.2		0.2		0.2	
透明度(m)	4.2		3.2		2.6		2.4	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	10.7	11.3	11.1	11.2	11.6	10.7	11.8	10.7
塩分（－）	32.1	32.8	30.8	32.6	31.4	30.1	31.6	32.1
DO(mg/L)	12.5	8.1	12.4	8.6	12.4	9.7	12.9	10.5
DO飽和度(%)	118.1	90.5	114.4	96.6	139.7	106.3	145.2	116.7
pH（－）	8.1	8.0	8.1	8.1	8.2	8.1	8.2	8.1
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層：上層（0m）・下層（海底面上 1m）

●主な出現種等　（速報なので、種名等は未確定です。）

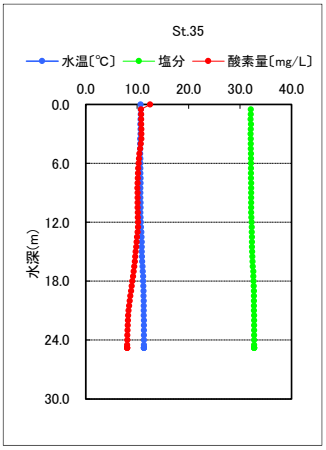
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタタテヌメリ(c) テンジクダイ(+) モヨウハゼ(+) コモチジャコ(r) アカハゼ(r)	ハタタテヌメリ(+) シロギス(r) クロダイ(r) マハゼ(r) マゴチ(r)	（出現せず）	ハタタテヌメリ(+) アカエイ(r)
魚類以外（目立った種）	オウギゴカイ (m) ケブカエンコウガニ(c) シャコ(c)	マンハッタンボヤ(m) エビジャコ属(c) スナヒトデ(c)	エビジャコ属(+) スナヒトデ(r) チロリ科(r)	エビジャコ属(c) スナヒトデ(c) ホンビノスガイ(c)
備考	上記の他、スナヒトデ、テッポウエビ科、フタホシイシガニ、タテジマウミウシ科等が確認された。	上記の他、テンジクダイ、チロリ科、トリガイ、クシノハクモヒトデ、ヒメガザミ等が確認された。	上記の他、ゴカイ科の仲間が確認された。	上記の他、サルボウガイ、ウスカラシオツガイ、ホトトギスガイ、イッカククモガニ等が確認された。

注）表中の（ ）内の記号は大まかな個体数を表す。
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置

水質状況



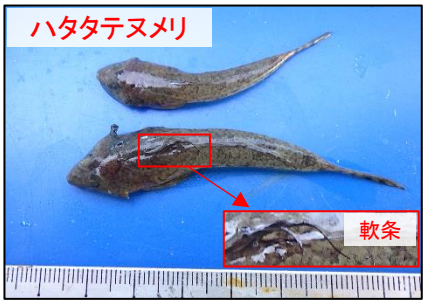
地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料

全長 8cm 程になる。体側に小さな青色の斑点が散在する。東京湾では湾奥から湾央にかけての水深10～40mの砂泥底に生息する。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm



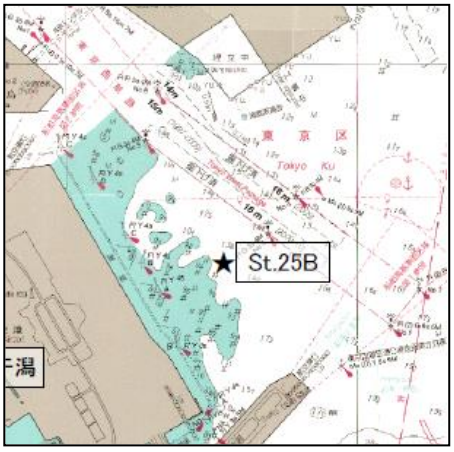
全長 14 cm程になる。オスの前部背びれにある軟条（軟らかいスジ）は糸状に長く伸びる。夏は湾央部のやや深い場所に生息し、秋から春にかけては湾奥部にも分布するが、これには夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。産卵期は 2～11 月。

東京湾全域から出現記録があり、現在は主に湾奥に分布する。比較的深所の泥底から砂泥底に生息する。産卵期は春であるが、今回抱卵した個体が採取された。

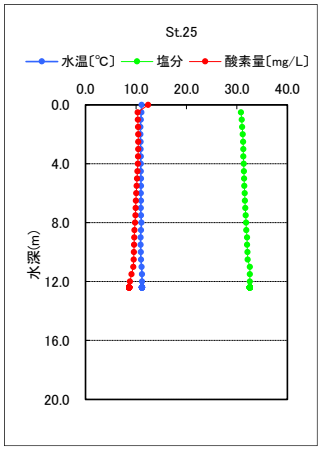
比較的深所に生息する。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾央に分布する。湾奥では貧酸素水塊の影響により減少したと考えられている。似るコモチジャコには尾びれに縞模様があるが、アカハゼには無い。

調査地点：St. 25

調査地点位置



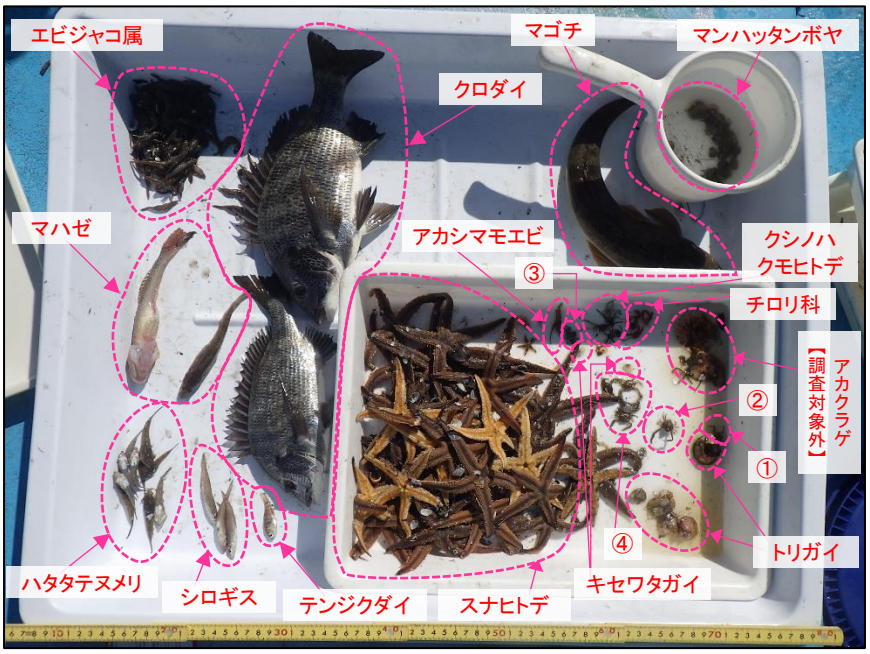
水質状況



地点状況

西側は東京国際空港が見える。

採取試料



本地点ではカニが 4 種類採取された。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

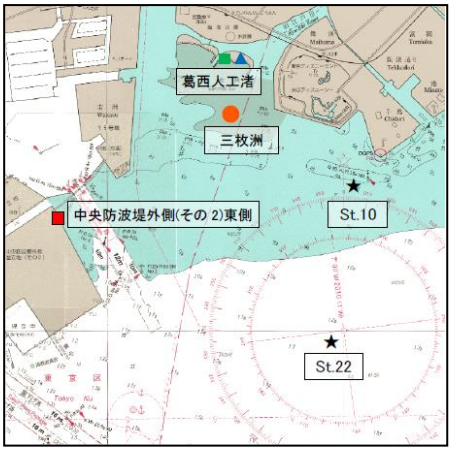
東京湾全域に出現し、河川の下流域や運河等の汽水域でも普通にみられる。体色は銀白色であるが、タイ科の中では黒っぽい。雑食性で小型甲殻類やゴカイ類、貝類、藻類等を食べる。雄性先熟(ゆうせいせんじゅく:オスとして性成熟した後にメスに性転換する)である。

東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。

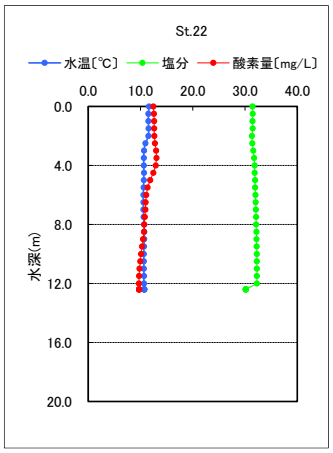
褐色の帯が入る平べったい体が特徴。内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息し、底生生物や小型の魚類を食べる。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深所へと移動する。

調査地点：St. 22

調査地点位置



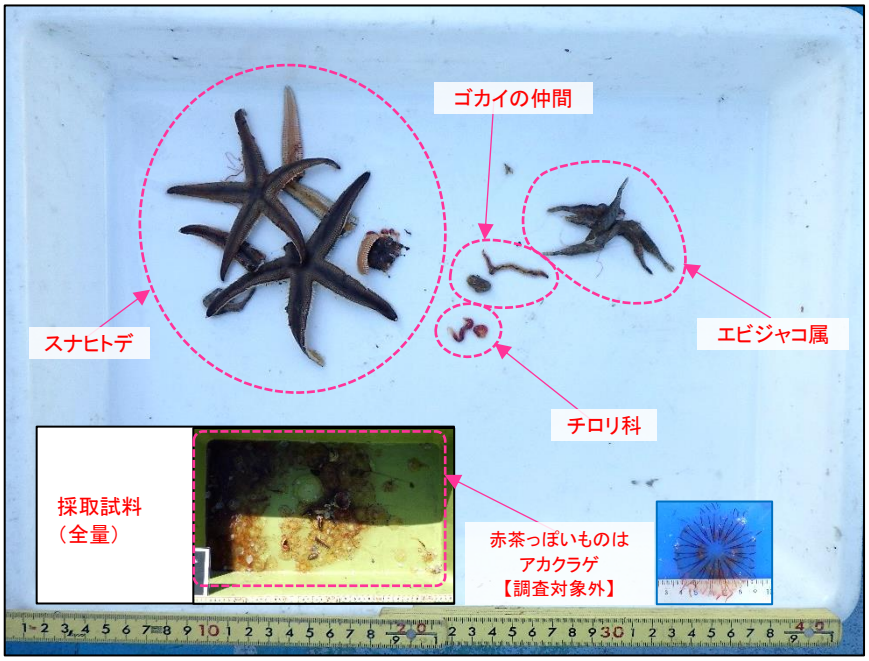
水質状況



地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデの仲間。砂中の貝類等を捕食する。ヒトデの多くは先端が吸盤になっている管足を用いて移動するが、本種にはその吸盤が無く、砂泥上をすべるように移動する。通常は 5 本腕であるが、まれに腕の数が多い個体が出現することがある。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

今回、全地点で抱卵した個体が確認された。

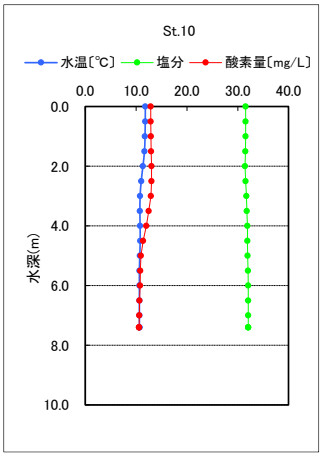
体長 10cm 程になる。4 つの鋭い牙（顎）がついた吻（ふん）を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。写真の個体の吻は、体内にしまい込まれている。

生活様式も食性も多様な生物。また、ゴカイ科を含め多毛類はたくさんの生物の餌となっている。肉眼での識別が難しいため、ゴカイの仲間とした。

調査地点：St.10

調査地点位置

水質状況



地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

東京湾で最も普通にみられるエイの仲間。甲殻類や多毛類等を食べる。尾部にノコギリ状の棘（毒針）を持ち、刺されると危険。

主な出現種　※写真のスケール１目盛：1mm

北米原産の外来種で、殻長10cmを超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。東京湾では湾奥部の泥底やカキ礁周辺で多くみられる。

殻長2cm程。稚貝の時は卵型であるが、成長するにつれて不規則に膨らむ。殻は薄く、もろい。外来種であるが原産地は不明。

水深30mまでの砂泥底に多く生息するウミウシ。巻貝の仲間で、生存時、殻は体の中に埋没している。小型の貝類等を捕食している。